

## 特集

アダム・スミス生誕300年、  
デイヴィッド・リカードウ没後  
200年に寄せて



左から、アダム・スミスの肖像（『国富論』第1巻（1869）口絵）、アダム・スミス著『道徳感情論』初版（1759）、『国富論』初版（1776）、  
リカードウ著『経済学および課税の原理』初版（1817）、リカードウの肖像（『デイヴィッド・リカードウ全集』第9巻 雄松堂書店（1975）口絵）

## CONTENTS

- 特集 アダム・スミス生誕 300 年、デイヴィッド・リカードウ没後 200 年に寄せて  
経済学部教授 益永 淳
- 茗荷谷・駿河台キャンパスに新図書館ができました
- 高速デリバリーを開始しました
- 山階鳥類研究所研究員の方々のご訪問を受けました
- 日・EU フレンドシップウィーク企画展「Fika ～北欧の国 スウェーデン～」を開催
- 文学部 西川広平教授ゼミ主催展示  
「江戸に伝わる中世の足跡－『江戸名所図会』でたどる江戸と多摩－」を開催
- 新取資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録（2022.7-2022.11 収集分）

# アダム・スミス生誕300年、 デイヴィッド・リカードウ没後200年に寄せて

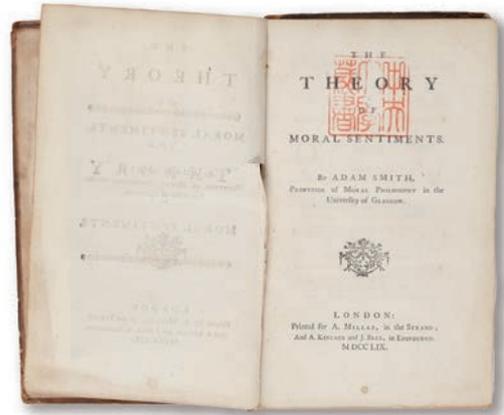
経済学部教授 益永 淳

今年、イギリス古典派経済学にとって記念すべき年である。イギリス古典派経済学とは、18世紀後半から19世紀後半に自由な経済活動を基本とする社会を志向した経済学の歴史上の学派名である。2023年は、このイギリス古典派経済学の祖とされるアダム・スミス(1723-90)の生誕300年、スミスを批判的に継承しつつ、経済学の理論的水準を飛躍的に高めたデイヴィッド・リカードウ(1772-1823)の没後200年にあたる。これまでの継続的な文献収集により、中央大学図書館には、スミスやリカードウに代表されるイギリス古典派経済学の貴重な文献が数多く所蔵されている。以下、その一部を紹介したい。

スミスは、イギリスの中でもスコットランドのグラスゴー大学で道徳哲学を学んだが、それは人間の行為の善悪の判定基準や人間が織りなす社会の諸問題を考察対象に含んでいた。このため、スミスは狭い意味での経済学者ではない。本来のスミスは道徳哲学者であり、彼にとって経済学は道徳哲学の一部をなすものであった。

実際、スミスが出版した最初の著作は『道徳感情論』(1759)である。ある人の行為が善または悪であるという感情は一体どのように生まれるのか。これが本書の中心的テーマであり、社会の中の人間を理解するために現在でも興味深く読める。たとえば、本書に出てくる「同感(共感)」という考え方は、日ごろよく耳にする「空気を読む」や「忖度」を批判的に理解するヒントになるであろう。『道徳感情論』はスミスが亡くなるまでに6版を重ねた。中央大学図書館には、1759年の初版から6版までのすべての版が所蔵されている。

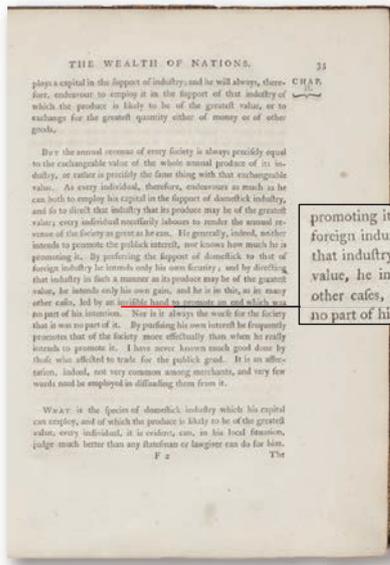
『道徳感情論』出版の数年後、スミスはグラスゴー大学教授の職を辞し、貴族の子弟の家庭教師になってヨーロッパ大陸に渡った。この転職(?)は、現在から見ると奇妙に思われるかもしれない。しかし、この転職の仲介人がどうしてもスミスを引き抜きたかったこともあって、家庭教師の契約終了後も終身年金(生涯にわたって支給される年金)がスミスに保証されており、それ以降



スミス著『道徳感情論』初版(1759)

の彼は、お金の心配をせずに研究に打ち込むことが可能になった。また、当時のフランスは学問の最先進国であり、最高の知識人たちとの交流のチャンスも彼には魅力的であったに違いない。このヨーロッパ大陸滞在中に頭に浮かんだ構想をもとに、約10年の歳月を費やして書き上げられたのが『国富論』(1776)である。そこでは、国民と政府の双方をとともに富ませることという経済学の目標の達成につながる理論的・歴史的・政策的な分析がなされている。そして、『国富論』は単なる商業や政府の規制や政策に関する論考という枠を越えた、文明の進歩に関わる体系的な書物でもあった。スミスが亡くなる頃にはベストセラーになっていた本書は彼の生前に5版を重ね、そのすべてが中央大学図書館に所蔵されている。

スミス思想の代名詞といえば、「みえざる手」であろう。現在では、市場での価格変化をつうじて供給量と需要量が調整されることを「みえざる手」と呼ぶのが一般的である。だが、「みえざる手」という言葉は『国富論』の中で1回しか登場しない。しかも、スミス自身は、価格変化をつうじた市場の需給調整とは無縁の議論の中でこの言葉を用いていた。こうしたことは、自分で『国富論』を読んでみないと気づかない。本来のスミスと現在のスミスのイメージの差を体感するために、自分自身で『国富論』を読んでみることをおすすめしたい。



promoting it. By preferring the support of domestick to that of foreign industry he intends only his own security; and by directing that industry in such a manner as its produce may be of the greatest value, he intends only his own gain, and he is in this, as in many other cases, led by an invifible hand, to promote an end which was no part of his intention. Nor is it always the worfe for the society

「みえざる手」(invisible hand) の言及部分  
スミス著『国富論』初版(1776)



スミスの墓

『国富論』の冒頭では、ピンを最初から最後まで1人でつくるよりも、ピンの生産工程を分割して各工程を別々の人が担当すれば(分業)、生産効率が飛躍的に高まることが強調された。このピン工場における分業の利益は、『国富論』において最も有名な議論の1つである。スミスの肖像はイギリスの20ポンド紙幣に用いられていたが、そこに記されている「The division of labour in pin manufacturing(ピン工場における分業)」という言葉からも、スミスが分業と結びつけて理解されていることがわかるであろう。



イギリスの旧 20 ポンド 紙幣

スミスは、フランス革命勃発の翌年の1790年に亡くなり、スコットランドのエディンバラにあるキャンオンゲート教会の墓地に葬られた。

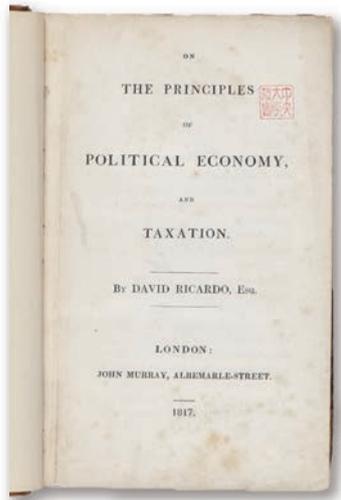
革命後のフランスは、イギリスを始めとする国々と20年以上にわたる戦争に突入していく。この戦争中にイギリスが見舞われたインフレーションを論じて経済学の世界にデビューしたのがリカードウである。戦前のイギリスでは、要求に応じて金貨と交換可能な兌換紙幣が発行されていた。だが、ヨーロッパ大陸の同盟諸国への資

金援助などによって戦時中にイギリスから金の流出が増大し、紙幣と交換すべき金の準備が追いつかなくなった。こうして紙幣と金の交換(兌換)が停止され、金の裏づけをもたない不換紙幣が発行され始めた。リカードウは、イングランド銀行によるこの不換紙幣の過剰発行がインフレーションの原因であると主張し、同行を強く批判した。なお、この批判を行った時、彼はロンドンの証券業者として活躍しており、生活の大半を経済学の研究に充てていたわけではなかった。

大学を出た後に大学教授にもなったスミスとは異なり、リカードウは小学校しか出ていない。ユダヤ人の家に生まれたリカードウは、小学校の後はオランダでユダヤ教の学校に通い、イギリスに戻ってからはロンドンの証券取引所で父親の仕事を手伝い始めた。つまり、リカードウの本職は証券業者であり、経済学の研究は趣味の1つにすぎなかった。

この状況を変化させたのが、ナポレオンとイギリスの最終決戦となった1815年のワーテルローの戦いである。この戦闘にからんだ国債取引によって、リカードウは大儲けをした。この戦いは当初ナポレオン有利と予想され、(敗戦の場合に信用が落ちる)イギリス国債の価格は下落していた。ここでリカードウは安くなった国債を買い集めると、イギリスの勝利によって価格が騰貴してからその国債を売却し、莫大な財産を手に入れた。

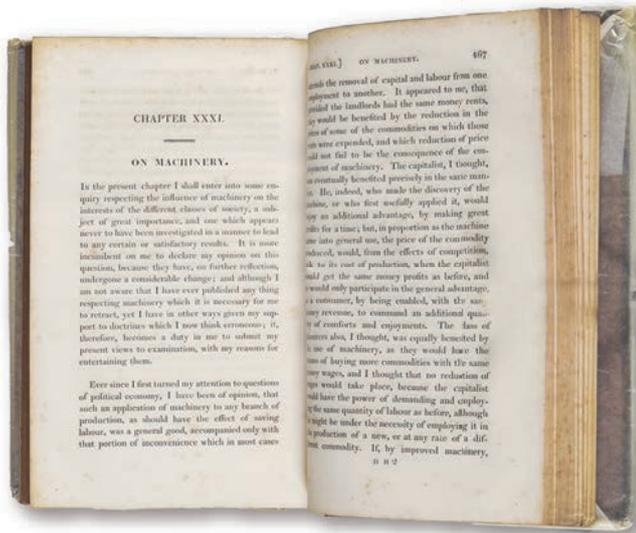
こうしてリカードウはFIRE(早期リタイア)を果たし、それ以降は経済学の研究に打ち込むことになる。その最大の成果が主著『経済学および課税の原理』(初版1817、2版1819、3版1821)である。そこでは、スミスの中にあった労働価値説(モノの価値はその生産に必要な労働の量によって騰落する)を理論的基礎に据え、経済社会の発展が賃金・利潤・地代をどのように変動させるかが示されている。彼の経済学はさらに、資本と人口の増加に伴う利潤の低下傾向を食い止め、ゼロ成長社会の到来



リカード著『経済学および課税の原理』初版(1817)

をできる限り先送りするために自由貿易政策の重要性を説くものでもあった。自由貿易政策によって労働者の生活に不可欠な食料を外国から安く輸入すれば、賃金を下げて(経済の成長に必要な)儲け、すなわち利潤を増やすことが可能になるであろう。『経済学および課税の原理』の出版によって、経済学者としてのリカードの名声は不動のものとなった。中央大学図書館には、本書の初版から3版までがすべて所蔵されている。

高校の政治・経済などで習う「比較生産費説」は、本書の第7章「外国貿易について」から着想を得たものである。また、リカードは本書の3版において、機械の導入(技術進歩)が労働者の仕事を奪うか否かという問題に関して見解を変更した。それ以前の彼は、機械が導入された部門で労働者の雇用は一時的に減少するが、モノの価格が安くなると人々の需要が増加するから最終的には新たな雇用が生み出される、と主張していた。だが3版では、ある部門への機械導入は経済全体の雇用を減少さ

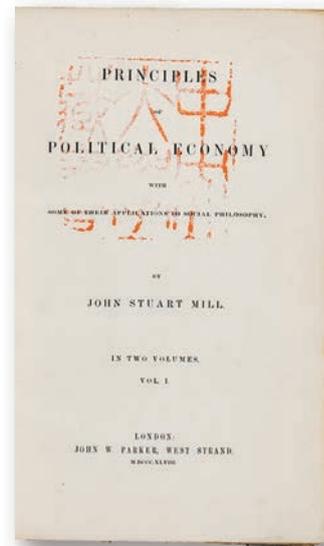


第31章「機械について」  
リカード著『経済学および課税の原理』3版(1821)

せるという(それまでとは逆の)見解が唱えられたのである。AI(人工知能)が人間の仕事を奪うのではないかという問題が注目される現在、リカードのこの議論は改めて注目されてよい。

ちなみに、2023年はリカードの次の世代にイギリス古典派経済学の代表者となったJ.S.ミル(1806-73)の没後150年にもあたっている。ミルは『経済学原理』(初版1848-7版1871)の中で、資本と人口の増加が停止してなお人間は道徳的・文化的に進歩しようと述べ、リカードとは異なるゼロ成長社会の見方を示した。経済成長と環境保全の両立をにらみながら持続可能な社会のあり方を考える際、ミルの経済思想は現在でも示唆に富む内容を含んでいる。

ミルは、女性の政治的・経済的(さらには家庭関係の)平等の実現も求めていた。最愛の妻ハリエット・テラーが亡くなった地であるフランスのアヴィニョンの墓で眠るミルは、この点でもいまなお読み返されるべき思想家の1人である。



ミル著『経済学原理』初版(1848)



ミルの墓



# 茗荷谷・駿河台キャンパスに 新図書館ができました！



2023年4月、法学部が茗荷谷キャンパスに、専門職大学院が駿河台キャンパスに移転したことに伴い、2つの新しい図書館ができました。それぞれの図書館の特色をご紹介します。

## 法学部図書館(茗荷谷キャンパス)

- ・施設概要…茗荷谷キャンパス 4階・地下2階（蔵書数約9万冊 閲覧席数753席）
- ・所蔵資料の特色…法律・政治に関する学習・研究用資料を中心に、教養関連の資料も充実している。



### 館内は教養エリアと 専門エリアに分かれています

教養エリアには可動式の座席やホワイトボードが多く設置されており、資料のそばで学修ができる図書館になっています。

### 様々な学習方法にぴったりの 施設が充実しています

グループ学習室や図書館のガイダンスなどを行うアクティブラーニングスペースに加え、集中して学習ができる自習室もあります。



法学部図書館では、昼休みの時間に、先生方の”本にまつわるお話の回”や、テーマを絞った講習会などのちょっとした面白い、ためになるかもしれない企画を開催しています。各回の詳細は、図書館のニュースなどでお知らせします。

### 学習用の機材も充実 しています

プロジェクターやモニターなども館内で利用ができます。



### 館内では様々な 企画展示を行っています

先生方からの推薦図書やキャリア関連の資料などの展示を実施しています。



## 専門職大学院図書室（駿河台キャンパス）

専門職大学院図書室は、2023年4月に駿河台キャンパスの12階に開室した新しい図書室です。ロースクールとビジネススクールのキャンパス移転に伴い、それまで市ヶ谷キャンパスで開室していたローライブラリーと後楽園キャンパスで開室していたビジネススクール図書室も閉室のうえ移転し、両図書室を統合した専門職大学院図書室として生まれ変わりました。

専門職大学院図書室の蔵書は、図書約5万2千冊、雑誌650タイトルとなります。閲覧席は51席で、図書室の周囲を囲むように窓際に多く置かれています。そのため、眺望もよい環境となっています。また、2~4人掛けのブース席や大きなテーブルにハイチェアの席など、コンパクトな空間にバラエティーに富んだ座席をご用意しています。



中心部には開架書架があり、書架の間にも、すぐに本を閲覧できる座席を設けています。開架書架以外にも集密書架があり、ロースクールとビジネススクールの学修・研究に関する図書資料が配架されています。

こうして開室した専門職大学院図書室ですが、4月には約6千5百人の利用があり、5月、6月にはそれぞれ8千人を上回るご利用をいただいています。

## 2023年4月～高速デリバリーを開始しました！

法学部図書館・専門職大学院図書室の開室に伴い、他キャンパスからの図書・資料の取り寄せサービスに高速デリバリーを導入しました。各キャンパスの利用者が、どの図書館の図書・資料であっても迅速に利用できるよう、環境整備の取り組みとしてスタートしたものです。従来は申込日の翌々日に資料の受取が可能でしたが、申込日の翌日（閉館日等を除く）に受取可能となりました。

**利用方法 CHOISより、お申込ください。**

**1**

①予約・取寄ボタンを押す  
※マイページへログイン

No.	巻号	CL	所蔵地	取得年月	請求記号	資料ID	状態	予約予定日	予約
0001			法学部図書室	ITL (請求)	007132	0002829278			予約
0002			理工	建築 (請求)	0021132	0002808081			予約

**2**

②受取希望館を選択する

資料の受取希望館を選択して下さい。  
[中央館]

**3**

③予約依頼情報を入力し、申込を押す。その後、確認画面が出たら内容を確認し、決定を押す。

申込日: 2023/9/1

連絡先: [申込]

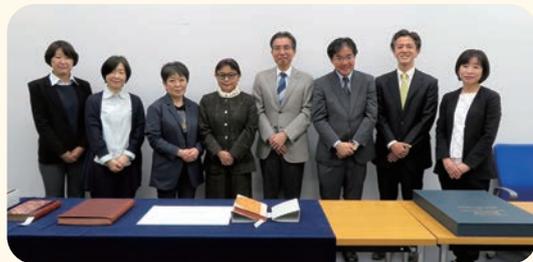
※取り寄せた資料の取り置き期限は、資料の到着より10日間です。  
※貸出中の資料への予約や、他キャンパスにある資料を普段利用するキャンパスへ取り寄せる機能です。利用するキャンパスの図書館にすでに配架されている場合は、直接ご利用ください。



## 山階鳥類研究所研究員の方々のご訪問を受けました

2023年4月28日(金)に山階鳥類研究所の鶴見みや古文化資料ディレクター、小林さやか研究員、黒田清子フェローの3名が中央図書館にご来館され、図書館の企画展「19世紀 華麗な博物図譜の時代」をご覧になりました。

本誌の第41号で特集記事を執筆された黒須詩子経済学部教授のご案内のもと、ジョン・グールドの鳥類図譜を中心に、エドワード・ドノヴァンの昆虫図譜なども含めて、図書館が所蔵する多彩な博物学の資料をご観覧され、研究交流を深める機会となりました。



(左から)小林研究員、黒田フェロー、鶴見文化資料ディレクター、黒須経済学部教授、三浦図書館長、高杉図書館副部長、佐藤図書館総務課長、山田図書館情報資料課担当副課長

## 日・EU フレンドシップウィーク企画展

### 「Fika～北欧の国 スウェーデン～」を開催

2023年5月29日(月)から6月15日(木)まで、中央図書館では、国際機関資料室(EU情報センター)が「Fika～北欧の国 スウェーデン～」を実施しました。日本とEUの文化交流を目的とする日・EUフレンドシップウィーク企画展(駐日欧州連合代表部後援)の一環です。

この展示では、ジェンダー平等からデザイン・家具・コーヒー文化まで、北欧の国・スウェーデンの暮らしや文化についての資料が約60点集められました。

展示会場では、スウェーデン大使館から提供を受けた関連冊子なども設置し、見学者が自由に持ち帰れるようにしました。アンケートに答えてEU公式グッズを配布する企画も行い、見学者は文具やトランプなどを選んでいました。アンケートには、「日本とは全く違う文化だと感じた」などの回答があり、日・EUの相互理解を促進する機会となりました。



文学部 西川広平教授ゼミ主催展示

## 江戸に伝わる中世の足跡

### 『江戸名所図会』でたどる江戸と多摩ーを開催

2023年6月21日(水)～ 8月6日(日)まで、中央図書館2階展示スペースにて「江戸に伝わる中世の足跡ー『江戸名所図会』でたどる江戸と多摩ー」と題した展示を行いました。

この展示は、文学部の西川広平教授と日本史学専攻・西川ゼミ4年次生、学芸員資格課程の博物館実習の学生が中心となって行いました。中央大学図書館で所蔵している、江戸時代に刊行された地誌(ガイドブック)『江戸名所図会』やいくつかの江戸の絵図を通して、多摩キャンパス、都心キャンパス付近の昔と今が分かりやすく紹介され、江戸時代の中央大学後楽園キャンパス付近の絵図や、高幡不動尊金剛寺の絵なども見られました。また、江戸・多摩の名所・旧跡を紹介するパネルを学生が作成し、中世に遡る江戸・多摩地域の歴史を学んだ成果を展示しました。絵図とキャプションで昔の江戸や多摩地域をたどることができる興味深い展示となりました。



『江戸名所図会』はジャパンナレッジ Libでも閲覧することができます！  
ジャパンナレッジLibはこちらから▼



※学外のネットワークから閲覧する場合は、VPNもしくは学認に接続してからご覧ください。

